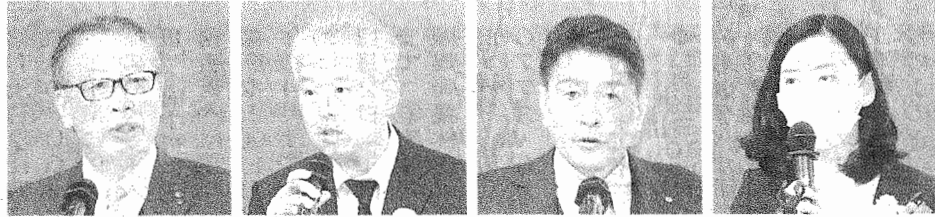


芳弘理事（政策委員）、森政博理事（政策委員）、齋藤順氏（事務局）ら  
が出席した。

# 建設ディレクター講座入校式 就職氷河期世代を支援 17人が受講、建設業に入職へ



岡野会長

鈴木部長

奥地理事

新井代表

厚生労働省の「就職氷河期世代短期資格等習得コース事業（建設業振興基金受託）」に採用された建設ディレクター育成講座の入校式が26日、左京区の京都国際会館で開催された。育成講座は17人が受講し、建設業への就職を目指す。

同事業は、厚生労働省が実施する就職氷河期世代向け就業支援事業の一環で、正規雇用を目指す求職者に工書類作成業務に必要な知識を習得させ、建設産業での新規雇用につなげるのが狙い。

入校式で（一社）建設ディレクター協会の新井恭子代表は「建設産業が基幹産業として継続的に発展していくために、建設ディレクターという職域が全国の建設業者から共通スキルとして認識され、多様な人材が活躍できる場を増やすことに貢献していきたい」とした。



入校式の参加者

入校式には、京都府建設交通部の関西浩二技監、京都市建設局の田中伸弥建設企画部担当部長ら多数の来賓が出席。代表で京都労働局職業安定部の鈴木宏部長が祝辞を贈った。

（一社）全国建設産業団体連合会の岡野益巳会長は「入校される17人のうち、13人が女性だと聞き、多くの女性が建設産業を希望されていることをうれしく思っている」「建設産業の目的は国民の安心安全を守ること。建設ディレクターのスキルを習得して社会に貢献していただきたい」と期待を表した。

建設ディレクターは、オフィスの事務員らが現場担当者の書類作業などをサポートし、現場の長時間労働軽減につなげる新しい職域であり、建設ディレクター協会が普及・拡大に努めている。今回の育成コースの訓練期間は12月15日まで続けられる。